

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370201380		
法人名	社会福祉法人 亀龍会		
事業所名	グループホーム倉敷		
所在地	岡山県倉敷市亀山701-2		
自己評価作成日	平成29年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokansaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kanistruue&ligyosyoCd=3370201380-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「誠心誠意・親切やさしさ」を理念とし、思いやりの心を持って優しくケアを行うことを心がけている。又、地域交流や地域貢献市町村との連携を大切に考え実践している。運営推進会議では地域の方やご家族等とよく話し合いサービスの向上や支援・理解に繋げている。身体拘束廃止や高齢者虐待防止に関しても真剣に取り組んでいる。毎月食事会や誕生日会、季節の行事や外食等を行い、のんびりゆったりした生活の中にも、適度な刺激を持って生活して頂けるよう職員一同ががんばっている。夜間入浴を実践し、在宅での生活習慣を出来る限り変えることなく生活できるよう取り組んでいる。職員のスキルアップを推奨し、GH内外への勉強会や研修への参加を積極的に行っている。GH内は安全・清潔・季節感を心がけ、ご利用者が落ち着いて生活できる場となるよう努めている。掃除・洗濯・調理・散歩・畑の世話・体操・編み物・歌・踊り・作品作り・買い物等ご利用者と一緒に行い、地域に根差した楽しく活動的なGHを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人全体が地元地域の福祉の拠点として信頼を得ており、利用者や家族にとっては心強い味方として安心である。系列の施設内で、職員が地域の方に空手を指導したり、月に1回職員が地域の清掃活動を行ったりしている。清潔で開放感のある共用空間では、66歳から最年長の105歳と幅広い年齢層の利用者が、穏やかにゆったりと過ごしている。遠方からの家族は希望に応じて、隣接する同一法人施設に宿泊し、ゆっくり過ごすことが出来る。長年勤務している職員も多く、職員全員に「ここに来て良かった」と思ってもらいたいと考えている。勉強会や研修など自己研鑽の機会も多く、職員にとって今後も希望が持てる職場と思う。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「誠心誠意・親切やさしさ」を理念とし、居間や廊下玄関等、日頃から目の届く所に掲示し、意識向上を図っている。理念を元にケアを実践する為に、新人研修や毎月の全体会で確認し、理念の共有実践につなげている。	法人理念を基にした、「より添ったケアを目指します」をホームの目標に掲げている。日々の実践や会議で話し合い、支援の向上に取り組んでいる。管理者や職員は、利用者に常に声かけし、孤立しないよう「より添うケア」に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアさんの訪問や亀山地区の夏祭りへの参加、龍王神社の子供神輿訪問、介護実習生受け入れ、外出時のお店の方との交流、地域の方の、消防訓練の見学、離脱事故の捜索等	演芸のボランティアが誕生日に訪れたり、近隣の小学生とのふれあったり、地区の祭りに参加したりと、自然な交流がなされている。職員が、月に1回、地域の清掃活動を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護学校の実習生さんを受け入れ、認知症の方の支援の方法等学んで頂く等、地域への貢献を考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の方、帯江・豊洲高齢者支援センター、ご家族、他GHの管理者の方、GH職員で2か月毎実施し、GHの実情や評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行っている。現在よい評価を頂いている。	家族を始めとして各方面の方々の意見を聞く場となっており、前向きにサービスの向上に取り組んでいる。議事録にそれぞれの立場からの発言が細やかに収められ、次会議へ繋ぐ工夫もなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	倉敷市役所の担当者の方に、制度の事や事故の報告・対策やその他些細なことでも頻りに相談に乗ってもらっている。担当者も親切に対応・協力・助言下さる。	高齢者支援センターから同じ職員が、運営推進会議に参加しており、継続した助言や情報交換をしている。市の担当者にも相談やアドバイスを受ける機会も多く、良好な協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを目指し、教育・研修(新人研修及び年2回)を行っている。具体的にどのようなことが身体拘束に当たるのか正しく理解した上でケアに取り組んでいる。現在身体拘束は行っていない。	「より添うケア」を目標に、拘束のない生活を通して、グループホーム本来の、その人らしい生活の提供に努めている。利用者の様子を見ながら、制止することなく優しく声かけして、一緒に行動する職員の姿が見られた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止委員会」を設け、職員に対する教育・研修(新人研修及び年2回)、高齢者虐待への対応・手順の整備及び外部の方への周知、委員会メンバーでの定期的な委員会開催等を行い、虐待防止を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当者はいないが、ご家族等の相談があれば対応していく。外部の研修で成年後見制度等について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定時には管理者が必ず立会い、ご利用者やご家族の不安点や疑問点を尋ね、十分に説明を行いご理解・納得して頂いた上で文書で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望を伺ったり、家族会や運営推進会議の場で意見を取り入れ、反映している。又、ご意見箱や苦情受付窓口を設け、改善に充てている。	家族の来訪時や運営推進会議などの機会に意見や要望を聞いている。困りごとにも利用者や家族の意向を充分に聞くよう心がけている。以前、居室のコンセントの破損があった際には、家族の意向に沿った対応を行った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を法人の全体会議やGHのミーティング等の場で、職員全員で審議し、納得した上で運営に反映するようにしている。勤務体制等も意見を反映させている。	職員間の人間関係は良好で、毎月のミーティング等で話し合い、意見の反映が図られている。理事長の「公平な勤務を組むように」との思いに沿った、職員の働きやすい体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、グループホームの活動に職員・ご利用者、ご家族と一緒に参加したり、種々の処遇記録の閲覧を行いながら、実情の把握に努め、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、グループホームの活動に職員・ご利用者、ご家族と一緒に参加したり、種々の処遇記録の閲覧を行いながら、管理者を含めた職員の力量等を把握し、内部・外部の研修を受ける機会の確保や推奨を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、倉敷市内のグループホームの事業所の集いに参加できるよう配慮を行い、ネットワークづくりを通じて、他事業所での取り組みも参考にしながら、よりよいサービスの提供が出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受容・傾聴・共感を基本として接し、ご利用者の立場で物事を考えたケアを導入するよう努めている。又、ケア導入時にはバックグラウンドも参考にし、ご家族の意向も取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望等はケア導入前には必ず伺い、尊重し、ケアに当たることで親密な関係づくりの一部となるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族及び関係機関から十分話を聞き、幅広い観点から、まず必要な支援を見極めケアの導入を行っている。その後1カ月以内にケアの見直しを行い、適切な支援となるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者は一方的に介護されるという弱い立場ではなく、職員と対等の立場であると考え、一つの家族として一緒に楽しみ、笑い、時には喧嘩もしながら生活を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やGHのイベント参加を推奨し、面会時には居室でくつろいで頂いたり、イベントを楽しんで頂く等行っている。又、定期的にご利用者の近況を報告したり、必要な場合は一緒にケアに取り組んだりして、共に支えあう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚、友人、知人等の訪問時は歓迎し、なるべく面会に来て頂きたいということをお願いしている。お墓参りや家族との外出や外泊も推奨している。又、馴染みの食器、家具、布団等の持ち込みを依頼している。	自宅で使い慣れた茶碗や箸、コップを使用している。職員と利用者で、馴染みの店に行き、食事を楽しんでいる。家族と一緒に行きつけの美容院へ出かける方もいる。一人ひとりのこれまでの生活を大切にされた支援が図られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に気を配り、把握するよう努め、気の合わない方の座席を工夫したり、トラブル時は間に入り仲を取り持っている。又、皆で出来る共同作業を日々の生活に取り入れ、なじみ・支えあえる関係が構築されるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、お見舞いにいたり、季節の葉書きを送ったりしている。又、退居時に必要に応じて、可能なことは支援していくことを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に生活しながら、日々の関わりの中で、希望や意向の把握に努め、可能な限り本人本位の生活となるよう支援している。	ミーティングでは担当職員を主として話し合わせ、職員間で情報共有をしている。訴えの難しい方には、日々の様子を見て、利用者の思いを判断している。その人らしさを大切に、本人の気持ちにより添った対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドの作成を行ったり、ご家族や関係機関等からの話を聞いたりして、これまでの生活の把握が出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人カルテや申し送りノート、受診ノート等に一日の過ごし方、心身状態、有する力等の記録を行っている。重要なことは必ず申し送りし、必要があればミーティングを行い、職員全員で共有して把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成に当たっては、計画作成者、担当職員、GH職員、ご家族の方等みんなで意見を出し合い、本人本位で現状に即した介護計画となるよう取り組んでいる。	長期目標を6か月、短期目標を3か月として見直し、プランを作成している。モニタリング用の評価表が作られ、利用者や家族の望んでいる生活の実現に向けた、現状に即した計画作成がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実践記録や日々の様子を毎日個別に記録したり、毎日の申し送りは、必要なが書かれたノートを使って行うようにして、確実に情報を共有しながら実践や介護計画の見直しができるよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在の援助が全て一番正しいとせず、職員やご家族等の色々な意見を尊重し、色々な方法を試しながら、よい援助を選択していくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホーム周辺のお店・散歩コース・ドライブコース・観光行楽地・地域の集い・コンサート等の把握に努め、ご利用者に適した場所を選択しながら外出を行い、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう援助している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院との密接な関係があり、いつでも相談に応じてもらえる。入居者・ご家族共に安心が得られている。又、病状等に応じて他の専門科の病院の医師を主治医としたり、入居前からのかかりつけの医師を主治医とすることもある。	協力医療機関である松田病院が24時間対応であり、利用者や家族にとっては安心なことである。週に1回の医師の往診と看護師の訪問がある。他科受診は職員が同行し、状況の把握に努めている。利用者の健康管理についての協力関係が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の定期訪問時や緊急時等には必要な情報を伝えたり、相談を行い、ご利用者が適切な受診や看護を受けられるよう協力関係を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された場合はお見舞いに行き、安心して頂けるよう努めている。又、病院と業務協定を結び密な関係づくりを行っている。情報提供表の提供やその他必要な情報提供及び相談も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応の指針や看取りに関する指針を定め、ご家族等に同意を頂いている。又、重度化された場合は、ご家族の意向を聞き、地域の関係機関と協力して支援に取り組んでいる。	入居時に指針に基づき話し合い、同意書ももらっているが、本人や家族の思いにより添って対応したいと考えている。同一法人内に多様な事業所を持っており、状態の変化に応じてその時々で話し合いで、最善の対処が出来るように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変や事故時に適切に対応できるように勉強会を定期的に行っている。又、予想される急変や事故等を具体的に想定した対応マニュアルの作成を行いホーム内に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時のマニュアルを作成し、GH内に掲示している。又、定期的に勉強会を行い、万が一の災害に十分対応できるよう取り組んでいる。消防訓練はご利用者や地域の方々にも参加頂き、年2回日中・夜間想定で行っている。	年に2回、避難訓練を実施している。春の消防訓練では水害等の災害全般の避難訓練を行った。地域の方々の参加もあり、夜間時災害についてのアドバイスをもらっている。隣接する同一法人施設や地域の方々との協力関係が出来ていることは心強い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	GH倉敷の理念「誠心誠意、親切・やさしさ」の下に、優しい対応を行うことを常に心がけている。又、トイレ誘導時は耳元で小声で声掛けを行ったり、居室に入る時はノックを行ったりとプライバシーの配慮にも努めている。	理念に基づいた「より添うケア」の実践に努めている。利用者を尊重し、その人らしさを大切にした支援提供を、職員一人ひとりの優しい声かけや穏やかな対応から窺うことが出来た。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自由に思いを伝えたり感情を表したり出来るように、一人ひとりの特徴やペースに合わせて優しく穏やかに接し、ご利用者のペースに合わせた支援に努めている。希望を伺って献立を決める等自己決定の尊重に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	掃除、調理、洗濯等一日の流れに入っていること以外の過ごし方は、ご利用者の希望に沿って支援している。買い物、散歩、体操、歌、畑の世話、作品作り、ドライブ、裁縫、折り紙等。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択、髪長さ、毛染め、化粧等はご利用者の希望を聞き、その人らしい身だしなみやおしゃれとなるよう支援している。自分で選択出来ない方は、職員が気をつけ適切な身だしなみとなるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自作メニューの日には、ご利用者の希望を聞いて献立を考えている。買い物や下ごしらえ、調理、盛り付け等、出来ることは一緒にいき、食事づくりが楽しみの一つとなるよう支援している。	業者から食材を購入し、献立がバラエティーに富んでいる。週に2回自作メニューの日や月に2回おやつレクの日を設けている。好みに応じた食事や、旅行気分が味わえるよう郷土料理を提供している。利用者の希望で月に2回、寿司の日がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量のチェックを行い、適切な栄養摂取や水分確保が出来るよう努めている。又一人ひとりの状態や好み習慣に合わせた対応も行っている。減塩食、キザミ食、ペースト食、おかゆ、ご飯量の調節、嗜好食品の追加等。		
42		○口腔内の清潔保持 入口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、口腔観察、週2回の入れ歯洗浄、夜間の入れ歯預かり等を行い、口腔内の清潔保持に努めている。又、必要に応じて協力歯科医院に訪問頂き、助言、治療等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表で排尿パターンの把握を行い、ご利用者個別に誘導時間を決めて対応している。なるべくオシメ類を使わない方向で考え、布パンツの使用推奨や、可能な限りトイレでの排泄支援を行っている。	排泄チェック表に沿って、様子を見ながら声をかけ、誘導をしている。トイレの設置数が多く、利用者にとっては何気ないことではあるが、安心感を覚えるように思う。この環境を活かし、排泄レベルの保持に努めている。	サービス向上の一つとして、排泄の自立に向けた取り組みは基本的なことではあるが、大切な事柄と思う。現状の維持は勿論のこと、その取り組みが更に向上することに期待を寄せる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表で排便パターンの把握を行い、ご利用者の個性に応じた排便ケアを行っている。予防として、適度な運動(散歩・体操・掃除)を日課とし、1日1000ml以上の水分摂取、便秘ぎみの方の乳製品の摂取、医療機関との相談等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	在宅時の生活習慣をGHでも実現する為に、夜間入浴を行っており、ご利用者も喜ばれている。入浴のタイミングも個別に対応したり、仲の良い方同士になるよう配慮したり、お湯の温度も個々の希望に対応している。	設立当初より、夜間入浴を実施している。夕食後にゆっくりと1対1で対応しており、週に3回の入浴を目安にしている。入浴直前に声をかけるようにして、拒否なく気分良く入浴できるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はGHの活動への参加を推奨しているが、無理に誘わず、希望を伺い、休息したい時は休んで頂いている。又、夜間入浴を行い、体を温めてから寝て頂く等、安眠しやすいように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬ノートの作成を行い、目的や副作用、用法、用量の把握を行っている。ご利用者に変化があった場合は服薬の確認を行い、医師や薬剤師、看護師と相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	バックグラウンドの活用や個々の能力や嗜好に合った役割分担を行い、張り合いや喜びのある生活となるよう支援している。好みのお酒やお菓子の購入、散歩、裁縫、作品作り、歌、体操、詩吟等の趣味活動の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の希望を聞きながら、行楽地等への外出を行い喜ばれている。お店の方ともなじみになり、親切な対応をして頂ける。又、散歩や畑の世話を日常生活の中で当たり前のこととしてとらえ、希望があれば随時出かけている。	お花見や小学校の運動会、近くのお地藏様までの散歩、買い物、外食などと、利用者の思いに添った外出支援を心がけている。買い物の帰りに、以前住んでいた家の様子が見たいという要望に応え、自宅に寄ることもある。利用者の意向を大切にした支援となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人持ちのお金は無いが、必要な物はGHで立替し購入している。食材やお菓子等の買い物時にレジでお金を渡したり、希望されるものがある場合は、その都度一緒に買い物に行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いてもらったり、電話の希望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天候や季節・時間に応じて、日差しや照明・温度の調節をしたり、TVや音楽の音も快適なものとなるよう心掛けている。又、共有空間には季節の花やオブジェを飾ったりしながら、居心地の良い空間となるよう努めている。	掃除が行き届き、畳のコーナーやソファも随所に置かれた落ち着いた場となっている。内庭には紅葉がきれいに色づいていた。当日は利用者の方々が、壁面に飾る、「ひとつ屋根の下に集う仲間」をイメージした作品を職員と一緒に制作中であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の座席は気の合った方同士となるよう配慮している。又、ソファやテーブル、畳スペース等を活用し、好きな場所で過ごせるように環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品々や家具、写真等を持ち込んで頂けるようお願いしている。本人や家族と相談しながら居心地のよい部屋となるよう努めている。	一人ひとりの好みや思いを大切にしたり、自分らしい落ち着いた居室となっている。自宅から家族が持参した植物に、以前と同じ様に水やりをして、その成長を楽しみにしている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレが分かるよう、名前・写真・好みの目印等を掲示したり、通路や居間等ご利用者の移動スペースには障害物を置かないよう配慮し、能力に応じて可能な限り安全で自立した生活が出来るよう取り組んでいる。		